

けいはんな環境・エネルギー 研究会ニュース

2011年度 第3回研究会開催



本年度第3回目に当たる今回研究会は、基調講演として京都大学大学院経済学研究科・地球環境学堂教授で、「環境経済学」等数多くの著書を出され、また、東日本大震災復興構想会議検討部会専門委員もお務めの植田和弘先生を講師にお迎えし、「震災復興とエネルギー政策—環境エネルギーシステムの再構築に向けて—」と題して御講演いただくとともに、「環境・エネルギー研究会」世話人の畑中直樹（株）地域計画建築研究所取締役計画部長をファシリテーターとして、植田先生にフロアからの質問にお答えいただく形で、フロアディスカッションを行いました。



- 基調講演では、
 - ・エネルギー政策から見た大震災の教訓と課題など震災復興とエネルギー問題・政策
 - ・供給偏重政策からの転換（電力需要と需給調整）、節電・省エネルギーと自然エネルギーなど、電力・エネルギーシステムの再設計
 - ・自然エネルギーの役割と可能性、発電原価から考える特質などについて、デンマークの風力発電やドイツのアーヘン・モデル等の事例紹介を交え、また、米国のエネルギー学者、エイモリー・ロビンズが提示した「節電所」の建設（節電のメカニズムを社会の中に組み入れていく）や、電力・エネルギーを地域のcommon-pool資源としてとらえて分かち合うといったことも含め、今後の環境エネルギーシステム等について、わかりやすくお話しいただきました。

- 休憩をはさんでのフロアディスカッションでは、植田先生の御講演を受け、原発の発電コスト、リスクコストの問題や再生可能エネルギーの普及が国民負担の増大や安価な海外製品による市場席巻をもたらす懸念、小学校における「エネルギー」関係科目の設定の必要性、アーヘン・モデルに係る当時の市民意識などについて、多数の質問、意見が寄せられ、有意義な質疑応答、意見交換の場となりました。

この度の未曾有の大震災は、東日本のみならず、日本の社会・経済に大きな困難をもたらしており、環境・エネルギー問題をはじめ、産業、社会や個々人の生活スタイルに至るまで、様々な側面において、そのあり方が問われています。そこで、本年度の「環境・エネルギー研究会」では、「東日本大震災後の情勢変化を踏まえた新たな地域づくりと産業の創出」を基本テーマに据えて、研究会活動を行ってまいります。

発行元

けいはんな環境・エネルギー研究会

けいはんな学研都市(精華町光台1-7)

けいはんなプラザボ棟3階

Tel: 0774-98-2240

Fax: 0774-98-2202

E-mail: eco@keihanna.biz

URL: http://keihanna.biz